

矢崎製作所様より 競技用電気自動車

アルミホイール貰い受ける

「鈴鹿大会での活躍を期待」

鈴鹿大会での13連覇期待

矢崎製作所 OIDE長姫高原動機部に部品

飯田市羽場権現の金属加工業矢崎製作所(矢崎孝弘社長)が5日、飯田OIDE長姫高校原動機部に競技用電気自動車のアルミホイールを贈った。同部は寄贈のホイールを装着したマシンで電気自動車の大会「Ene-1 SUZUKAチャレンジ」(21日・三重県鈴鹿市)に出場する予定で、高校生部門の13連覇に挑む。2023年から同部の生徒延べ8人が同社へ4回ほどインターンシップに訪れ、実際に加工や検査を体験する。体験の中でアルミホイールの設計をし、同社が仕上げを担当。このほど完成した。同部のスポンサーを務める同社は8年前にもアルミホイールを贈るなど、これまで活動を後押ししている。



完成したアルミホイールの贈呈式

新ホイールは、従来よりもスポークの本数を増やし、さらに厚みを増すことで耐久性を向上させた。先輩部員の電気自動車への情熱を引き継いだ部品を携え、今年最後のレースに臨む。贈呈式が同校で開かれ、矢崎社長

が部長の熊谷健太さん(17)と部員の小川隼橙さん(同)に「素晴らしい活躍を期待している。この伝統を守ってほしい」とアルミホイールを手渡し激励した。熊谷部長は「先輩方が手掛けた部品で思いが詰まっている。これで勝ちたい」と意気込み。最初のインターンシップには熊谷部長の兄颯太さんも設計などに参加しており「良い報告ができれば」と話していた。

Ene-1 SUZUKAチャレンジ
高校生部門13連覇に挑む

原動機部

(十一月二十三日 大阪府岸和田)

2025エコデンレース全国大会

充電池部門

総合 準優勝、3位入賞

総合2、3位入賞果たす

OIDE 長姫高
原動機部がエコデン大会に出場

飯田OIDE長姫高校原動機部は、11月23日に大阪府岸和田市で開かれた「2025エコデンレース全国大会」の充電池部門で総合2位と3位に入賞した。電池を動力に規定時間内の周回数を競った。部長の熊谷連太さん(2年)は「優勝したかったが、チーム選を行った後、上位

6車体が決勝レースに臨んだ。

コースロスを最小

限に、かつバッテリー

残量を意識しながら

走行させるドライバ

ーの腕とチームの

判断が問われる。同

部からは2台が出

場。予選は1、2位

と上位を独占した

が、決勝では「WIS

DOM」が制限時

間内で53周を走り2位、「WISDOM α」が52周で3位だった。

WISDOMのド

ライバーを務めた熊

谷部長は「少し残念

だったが、チームと

して後半巻き返す判

断は当たったと思

う」と語った。3位

だった仲田晴哉さん

(1年)は初めての

大会。「事故なくクリ

ーンに走り切ること

ができたのは評価し

ているが、電池が減

りペースダウンした

際に抜かれてしまっ



表彰台で健闘をたたえ合うOIDE長姫原動機部

たところは経験不足が出た」と話した。同部は21日、三重県鈴鹿市の鈴鹿サーキットで開かれる電気自動車大会「Energy 1 SUZUKI Aチャレンジ」に出場し、高校生部門

の13連覇に挑む。熊

谷部長は「先輩たち

が築いてきた成績に

恥ずかしいくないレ

ースをしたい。新車体

を投入する予定でも

あり、チームの士気

を上げて優勝を目指

す」と力強く語った。

高校2年生対象

飯田職業安定協会主催 企業説明会

2025年(令和7年) 12月12日 金曜日

南 信 州 新 聞

地元企業知る機会に

飯田職業安定協会 高校2年生対象に説明会

飯田職業安定協会は11日、高校2年生を対象にした企業説明会を飯田市座光寺のエス・バードで開いた。飯田下伊那地域の6校から約500人が参加。多様な業種の地元企業84社から業務内容ややりがいなどを聞いた。協会は高校3年生向けの企業説明会も開いているが、高校生の早い時期から地元企業を知る機会をつくり、来年の就職活動や進学後の進路決定に役立ててもらおうと、2022年から2年生向けの説明会も開いている。深刻な人手不足で若手の人材確保への動きが強まる中、定数の84を大幅に超える120社から応募があり、参加企業は抽選で決めた。

午前の部には飯田OIDE長姫高校の2年生、午後の部には他の5校の希望者が参加。生徒たちは1クール25分間で計3社のブースを回った。企業はモニターやパンフレットを用いて理念や仕事の内容を説明。自社製品を紹介しながら、自社の特徴や強みをアピールし、福利厚生や充実に取り組んでいることなども紹介した。生徒たちは事業者の話に耳を傾けメモを取り、職場環境などについて熱心に質問していた。

飯田OIDE長姫高校の井原悠太さん(17)は「一人から直接話が聞けるので企業への理解が深まった。電気系の会社に興味がある」と話していた。

説明会に先立ち、協会は飯田OIDE長姫高校で3日間、事前授業も実施。計15社が同校に出向き自社を紹介した。協会の担当者は「地元で魅力ある企業がたくさんあることを早い段階で知ってもらい、若者の地元就職につなげたい」と話していた。



企業の説明に耳を傾ける高校生

地元の企業を知る機会に

商業科

地域を探究する「地域人教育」

mini橋北イルミネーション

たくさんの橋北の魅力を広めたい

橋北の魅力広めたい

飯田OIDE長姫高校の生徒が飯田市馬場町の旧飯田測候所で「mini橋北イルミネーション」を開いている。



クリスマスツリーとイルカ

昨年まで住民が続けてきた冬の風物詩を継続させ、電飾で幻想的に彩っている。

イルミネーションを始めたのは商業科の生徒10人。地域を探究する「地域人教育」の中で橋北地区を担当し、住民と交流しながら地区の課題を学んでき

た。

住民にインタビューをする中で、旧測候所でのイルミネーションを続けてきた地元有志の「橋北面白倶楽部」が高齢化や人手不足で活動を休止したことを知り「若い力で人が集まる場所をつくり、地区の魅力を広めたい」とイルミネーションの継続を提案した。

同倶楽部の協力を受けたが、11月21日に準備を始め、飯田東中学校の生徒や地区住民らも飾り付けを手伝って30日に完了。6日に点灯式を開いた。

計6種類を設置。敷地内の公園に約10がわたり、人が通

OIDE 長姫高生 イルミネーション継続



金色のトンネルもつくった

れる金色のアーチを設置した。クリスマスに合わせてツリーを飾り、その中に2頭のイルカを置いた。ベンチの上部にライトで藤の花をつくった。測候所の建物にはプロジェクションマッピングも投影し、生徒のデザインをもとにWeb lit(同市上郷黒田)が制作した。

発起人の秋元真之介さん(18)は「若者の力でたくさんの橋北の魅力を広めたかった。生徒の思いを感じてもらえたら」と話している。

イルミネーションは21日までの土日と24、25日に点灯する。時間は午後5時〜同8時。駐車場は橋北臨時駐車場や市営駐車場を利用する。

地域人教育発表会

地域での学び、成果を発表

OIDE 長姫高 地域での学び、成果を発表 商業科の「地域人教育」



OIDE 長姫高の地域人教育成果発表会

飯田OIDE長姫高校商業科が飯田市や松本大学の協力を得て取り組む「地域人教育」の成果発表会が23日、飯田市鼎文化センターであった。市内各地区をフィールドに課題解決などに取り組んだ3年生78人が、活動を通じて地域住民らと協定により、前身

を前に経過や成果などを発表した。地域人教育は高校生が地域理解を深め、地域での生き方を考え、郷土愛を育み、地域活性化や社会に貢献できる人材の育成を目的とした教育プログラム。3者のパートナーシップ協定により、前身

の飯田長姫高校時代から今年で14年目を迎えた。この日は市内7地区と全市などで活動を展開した3年生の計8のグループが発表した。

このうち、川路地区をテーマにしたグループは、川路の魅力を発信する方法として季節を感じてもらう「旅行プラン」を考案した。

地区住民への聞き取りから、地区の歴史や魅力を知り「住民の『川路を大切にしたい』という思いをひしひしと感じた」とする一方で、「若い世代には川路の魅力が伝わっていないと実感した」と振り返った。

代表生徒は「実際に旅行プランを実行することができなかったのは残念だが、活動の成果として残すことができた」と語り、来年、地域人

教育で川路地区をテーマにすることがあれば、ぜひ実施してほしい」と後輩に託した。

飯田市、松本大学の協力を得て

市内各地区をフィールドに課題解決に取り組む